小橋敏弘の ニッポン大好き！Hello Japan

ヨーロッパ在住40余年、外から見ていた日本！

Vol.28 Dogを後ろから読むとGod

□ **徳川綱吉が犬を特別に保護した理由**

1.「生類憐みの令」の思想的背景

綱吉の政策の中心にあったのが、生き物をむやみに殺してはならない という法令「生類憐みの令」です。この思想の根底には、仏教（特に儒教・朱子学の影響）による“命を大切にする”倫理観 がありました。

綱吉は幼い頃から学問に熱心で、「生き物を慈しむことは徳のある政治につながる」と信じていたと言われます。

4. 政治的アピールとしての“徳治”　綱吉は武断政治から文治政治へと転換した将軍でした。

武力よりも道徳

恐怖よりも慈悲

力よりも徳

こうした政治理念を示すために、弱い存在を守る政策を強調した という側面があります。犬の保護はその象徴として最もわかりやすかったのです。

□ **2. 忠犬グレイフライアーズ・ボビー（スコットランド）**

エディンバラに実在した小さなスカイテリアのボビーは、飼い主の死後14年間、毎日墓のそばを離れなかった と伝えられています。

町の人々はその忠誠心に心を動かされ、ボビーは町の象徴として今も銅像が建てられています。

□ **4. 日本の「タローとジロー」ー 南極で生き抜いた兄弟犬**

1958年、日本の南極観測隊が撤退した際、犬ぞり隊の犬たちは鎖につながれたまま置き去りにされました。しかし翌年、再び南極に戻った隊員たちが見たのは、奇跡的に生き延びていたタローとジローの姿。極限の環境で生き抜いた彼らは、日本中に大きな感動を与えました。

いかがでしたか、なかなか興味深いですよ。

自称超愛犬家の小橋でした。

写真/筆者（右）と妻

profire 小橋敏弘

年齢、もうすぐ７０歳。

１９７５年からヨーロッパ在住。その大半はスイスの企業にてサラリーマン生活をし、６４歳からリタイア生活をエンジョイしています。

学生時代をイギリスで過ごし、大学卒業後はスイスに移住。孫６人に囲まれている爺さんです。

趣味は何にでも興味を持ち、最近ではChat　GTPを駆使して、幅広い分野を勉強中。

母国語日本語を再勉強しながら、ドイツ語、英語も同時に駆使し、ヨーロッパ各国に住んでいる友達とコミュニケーションを取っています。

唯一、体を動かす趣味は、ここ１０年ほど毎週一回ぐらいのペースでやっておりますCountry Line Danceです。